

俳句作品

俳文学同好会

(八月五日 小布施ハイウエイオアシスにて)

三井 龍介 (豊洲小)

焼け肌に声のしみ入る蝉時雨
雨降れと声を張りたる牛蛙
走り去る子の忘れたる夏帽子

神頭 さつき (豊洲小)

合宿の日焼けせる肌輝けり
噴水の周りに喚声子等集ふ
ゆらゆらと大気揺るるや炎天下

長田 みゆき (栗ガ丘小)

空の青いよいよ深し夏木立
池の上塩辛とんぼ対で飛ぶ
鳴き声す姿が見えぬ牛蛙

西澤 由里恵 (須坂支援)

花びらを搦め捕りたる蜘蛛の網
緑陰の透き間の空の真青なる
木の幹を右往左往の蟻の群

下川 光子 (豊洲小)

噴水の秀の空に舞ひ子等の声
運動に励む子等追ふ夏の蝶
噴水の音に割り込む牛蛙

鶴田 順子 (日滝小)

夏空に飛行機雲が引き込まれ
子どもらの集ふ輪に入る川蜻蛉
お揃ひの帽子集まる夏木立

田中 保 (雉子) 主宰

地の底の声をあげたる牛蛙
牛蛙一声吼えて鯉散らす

(十一月三日 臥竜公園にて)

三井 龍介 (豊洲小)

千輪咲花火のごとし菊花展
秋空を水面に映す竜ヶ池
小春日に頭を垂れるフラミンゴ

森山 知之（豊洲小）

我菊見ペンギン我を見何思う
白孔雀勝負を挑む千輪咲
福助と一緒に立ちたいフラミンゴ

神頭 さつき（豊洲小）

小春日和湖畔の周りを散歩する
光りつる桜紅葉に誘われる
菊の香の漂ふ中を散歩する

長田 みゆき（栗ガ丘小）

鴨渡り竜ヶ池がにぎやかに
檻の熊仲良くじゃれ合い寒さ飛ぶ
蜜蜂が千輪咲きで忙しく

下川 光子（豊洲小）

朝日浴び花嫁のごとだるま菊
人々の笑顔集めし菊扇
檻狭しベンガルトラの右左

田中 保（『雉子』主宰）

だるま菊相睦みあひ菊花展
菊花展庭園づくりの塔飾る
先着の鴨散らばりて陣なさず